千葉県日独協会通信 N0. 93-2015 年 2 月 14 日

Die Eiche ディ　アイヘ

http://www.jdg-chiba.com

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第２ワールドナーシングホーム内
電話 047-461-9111　Fax 047-461-7010

初のホームスティ　会員４家族で

「おもてなし」に心を込めて

１月　千葉大のドイツ人女子学生を招き

当協会初めての会員によるドイツ人留学生たちのホームスティが行われた。「留学生に日本の生活体験を」「私たちも異文化交流の機会に」という宗宮好和会長の提案に千葉大が協力し、１月 17-18、24-25 日４人の女子学生がそれぞれ会員の家庭に招かれた。彼女たちは、手料理をはじめ、普段の旅行では触れられない「日本の素顔」に大満足。ホストファミリー(Gastfamilie)と、留学生の１泊２日を追った。

□**二見理一(ふたみまさかず)さん**(75)=袖ヶ浦市=宅に、**エーファ・ラインホルト(Eva Reinhold)さん**(29)=ライプチヒ大学在籍（翻訳学４年、日本学３年)。

＜海を背にエーファさんと弥生さん＞

１月 24 日午前 10 時、JR 長浦駅で約束通り落ち合う。自宅でまず、妻弥生さん(68)と寝室用の和室を見せる。「日本語は話せる」というが「反応が少し薄い」（二見さん)。不安が一瞬かすめる。夕方お風呂に。１時間経っても出てこない。「大丈夫？」と弥生さんに「ハ~イ、大丈夫です」とエーファさん。気持ちよかたぁ、と言う彼女は、長女の英理子さん(44)が加わった夕食では、緊張も解けた様子。ビールで軽く乾杯！しゃぶしゃぶ、野菜のてんぷら。大根おろしに healthy と、エーファさんは大喜び。

25 日、近くの市郷土博物館へ。貝塚、古墳、埴輪。説明の度にエーファさんはスマホを覗く。インストールされた辞書や百科事典を見て納得している。リヒテンシュタイン出身のエーファンさんが「海と釣りが見たい」というので、英理子さん運転の車で約 60km 離れた白浜の太平洋へ向かう。快晴だが、寒い。波も荒い。海釣りの人を見かけるが、岩礁は危険で近づけない。高さ 30m の野島崎灯台に登った。青い海原にエーファさんは「遠くまで来ちゃった」と、感激。帰路、生簀の魚店でヒラメ、スズキなどを網で掬っている様子に「あれが釣りですか？」という質問に弥生さん、英理子さんも説明にあわてる一幕も。その後、エーファさんから家族にお礼の手紙と電話が入り、「9 月にドイツへは帰りたくないほど楽しかった」と。

□**宮脇智子さん(46)**=千葉市＝宅に、**ラモナ・レース(Ramona Röss)さん(21)**=デュッセルドルフ大学在籍（日本学２年)。

＜香取神宮でモナさん、智子さん＞

木更津の友人宅から来たモナさん（愛称）と１月 17 日午後、JR 海浜幕張駅で会い、自宅でくつろいだ後、ベイタウンを散歩した。夫大樹(たいき)さん(60)、長女華凛(かりん)さん(12)、長男理人(りひと)さん(11)たちとすき焼きを囲んで夕食。大樹さんの故郷・神戸から取り寄せた牛肉で、話しが弾む。「13 歳ころ、日本のビジュアル系バンドの歌詞の意味が知りたくて日本語の勉強を始めた」とモナさん。新婚旅行でドイツに行った智子さんたちは「日本に住んでいる外国人を招待しているみたい」とモナさんの日本語に舌をまく。その夜、「人生ゲーム」で一家は大いに盛り上がった。

翌日は佐原へ。水陸両用バスで利根川を渡り、モナさんは神社が好きなので香取神宮に案内した。モナさんが引いた籤は「大吉」。卒論のテーマは「囲碁」だという。将来、慶応大大学院入学志望のモナさんに智子さんは改めて大吉を祈った。

□**安藤永一さん(66)**=習志野市＝宅に、**アリーナ・ゲルツ(Alina Görz)さん(21)**=デュッセルドルフ大学在籍（日本学専攻、３年)。

１月 24 日、JR 津田沼駅で落ち合った後、アリーナさんの希望でドイツ村へ。ドイツ滞在計 20 年の安藤さんと妻喜美子さん(66)は「日本にあるドイツ村へ行きたいという気持ちはわかる」と納得して、予定を変更した。長女弥生さん(42)、孫の彩香さん(10)も一緒に車で出かけた。

（次頁につづく）

<アリーナさんと安藤さん一家>

「だだっ広いだけ!?」にみえた村だったが、夕方イルミネーションが点灯して一気にメルヘン世界に。土曜日だけに 1000 発の“冬花火”も次々にあがり、夜空を彩る。観覧車から夜景を眺め、バーベキューも満喫して「楽しかったぁ」。アリーナさんたちは遅くまで大はしゃぎだった。

翌朝、TV「マッサン」の主人公が異文化の摩擦に悩む様子を喜美子さんから聞いたアリーナさんは、興味深そうに画面に見入った。10 歳ころ、日本のアニメに魅せられて日本語を学びはじめたアリーナさん。「日本語がほんとにうまいなぁ」と永一さんは感心しきり。自宅近くの茜浜から稲毛の海岸をドライブ、霞む富士山やスカイツリーを眺めながらお喋りを楽しんだ。

□**佐藤憲昭さん(68)**=印西市=宅に、**クリスティン・ヴォルフ(Christin Wolf)さん(23)**=ライプチヒ大学在籍（日本学専攻、4 年）

1 月 17 日昼前、北総線千葉ニュータウン中央駅で妻公子さん(65)が出迎えた。丁度、自宅マンションの広場で餅つき大会が催されていてクリスティンさんが飛び入りで餅つきに挑戦、臼に向かう。住民たちの掛け声で杵を振り上げてペッタン、ペッタン。「杵は最初重かったけど、慣れちゃった」と 3 分ほどの初体験に上機嫌。

<杵を持つクリスティンさん>

「喉につかえないように」と自分に言い聞かせながら搗き立ての餅を味わった。午後、築 250 年の古民家「宮崎亭」を見学し、カラオケに。「桜田淳子などを 6-7 曲、日本語で歌ってとってもお上手でした」と公子さん。彼女が大好きなしゃぶしゃぶの夕食後は、夫妻と 3 人で百人一首に興じ、初めてなのにカルタを結構取っていたという。

翌 18 日、佐藤さんたちが贔屓にしている金原亭馬治さん（馬生師匠の弟子）の落語を聞きに公民館へ。ライプチヒでドイツ語の落語を聞いたという彼女は「わからないところもあったけど、おもしろかった」と、「笠碁」などの演目を楽しんだ。その後、馬生さんも交えてお好み焼きを食べ記念に扇子、名入の手ぬぐいを土産に帰路についた。

千葉県日独協会　宗宮好和会長から

ドイツ人留学生に日本人の日常生活や文化を体験してもらい、異文化交流を図るためにホームビジット、ホームステイの機会を提供していただける方を昨年 8 月募集しましたところ、多くの皆さまから前向きのご回答をいただきました。今回はホームステイのみでしたが、1 月に 2 回に分けて 4 会員のご家庭でお引き受けいただきました。お陰さまで学生、ホストファミリー、千葉大学ともそれぞれご満足のいく評価をいただいたようであります。厚く御礼申し上げます。

日本の伝統文化を伝えて

雅楽　ドイツ演奏会

東京―ベルリン友好 20 年記念

習志野市の本多恵昭さん(55)=聞信寺住職=を団長とする雅楽演奏家たちが昨年 12 月、ベルリン、バイロイトで伝統的な日本音楽を披露した。創立 130 年になる、民間で最も古い「小野雅楽会」（小野貴嗣会長）と、文化庁の文化交流使でもあった真鍋尚之さん(43)=作曲家=ら 8 人。

本多恵昭さん

真鍋尚之さん

雅楽は中国、朝鮮半島を経てベトナムや日本で花開いた世界最古のオーケストラといわれる。東京―ベルリン友好 20 周年記念の最後を飾るイベントとして同市と日本大使館が招いた。ベリリン市庁舎で 12 月 12 日開かれた公演は、独日両国の文化関係者などの招待客やベルリン州の HP に応募した市民ら 330 人が出席。「クリスマスシーズンの金曜日にもかかわらずほぼ満席」（同大使館）で、ドイツ文化人の関心の高さを示した。

<在ドイツ日本大使館提供>

雅楽(Gagaku-Musik)は、楽器による演奏の管弦曲と、舞楽の納蘇利(なそり)がある。公演では管弦曲で最も有名な「越殿楽(えてんらく)」が演奏された。黒田節の原形とされる曲。

「納蘇利」は２匹の龍が高麗笛、篳篥（ひちりき）と楽太鼓などに合わせて仲良く舞い、２都市の友好を表現し、祝った。

＜在ドイツ日本大使館提供＞

バイロイト公演は、東洋美術の展示で知られる美術館の小ホールで同 20 日に開かれた。有料（€10）だったが、一般市民 80 人でギッシリ。笙、楽大鼓、楽琵琶などが奏でるハーモニーに聞き入った。

雅楽は中国系の舞いは左足から、朝鮮系は右足から動くなど立居振舞い、楽器の扱いに厳格なしきたりがある。ドイツ婦人は「団員の登場、衣裳、作法はドキドキして興味あるものだった」「笙は未知の領域に感じられるような甘い、異国の音を奏で、私のヨーロッパ的な耳には大変心地よかった」と真鍋さんに感想を寄せた。

本多さんは「雅楽は本来、屋外の音楽です。ヨーロッパの室内の音楽とは本来『質』が違う。しかし、ドイツや欧州のどこへ行っても『こんな音楽形態があったのか』と好奇心が伝わって来て驚いた」と話している。

英語のアンケートに対するバイロイト美術館の回答によると、「聴衆の反応は」に最高の☑Very satisfied に印がついていた。「このプロジェクトが日本の芸術や文化に対する聴衆の更なる理解増進に貢献するか」という４段階の問いに、☐Very well ☑Well ☐Fairly☐Poorly とあった。

在ドイツ日本大使館の文化担当、岩渕系（けい）さんは「日本の伝統文化に触れてもらう取り組みを進めています。若者が集めるイベントでも積極的に紹介していきたい」と話している。

ドイツと私

Lieblingshund Taro

愛犬タロー

遠藤　斌（あきら）

ドイツではいま、日本犬を飼うのが大ばやりだ。ドルトムントの東、ウンナ(Unna)には「ドイツ柴犬クラブ」という愛好会（会員、110 人）がある。あのピンとした耳、クルッと巻いた尾。秋田犬も人気のようだ。日本犬の人気の秘密はなんといっても飼主への忠誠心と、他人には媚びないところなのだという。

柴犬のタローとともに過ごしたミュンヘン時代(1993-2002 年)を思い出す。私がまず先に赴任、その後４か月ほどしてタローが家内とともにやって来た。いよいよ一家３人(!?)のミュンヘン生活が始まった。1993 年 10 月のことだった。

ここで問題が起きた。ドイツで犬を飼うには登録をし、犬税(Hundesteuer)を納めなければならないという。さて、どこにどうしたらいいのか。「独日協会」の親切な女性会員のお世話で無事、手続きを済ますことができた。税額は都市により異なるが、ミュンヘンでは現在、一匹で年額 €100 である。

ドイツ人はとにかく動物が大好きだ。タローと散歩していると、見知らぬドイツの大人や子供たちも走り寄って口々に尋ねてくる。日本犬を初めて見るのだろう。子供たちは親によほど躾けられているのか、先ず、「噛まない？(Beißt er?)」とくる。次いで 、「何という犬種？」。大人たちはタローの姿に“schöner Hund“を連発する。地面に鼻を摺りつけるように嗅ぎまわっているタローに”Was steht in der Zeitung? “ 、“Etwas Neues?” と話しかける。タローが新聞を読んでいるかのように「何が載っている？」とユーモアたっぷりなのだ。

ドイツ人が好んで飼っているのはジャックラッセルテリア、ダックスフントといった小型犬、ラブラドルなどだ。「アキコ」という秋田犬を連れた近所の女の子に出会ったり、動物園で柴犬を抱いたカップルと話したこともある。家内はタローを毎日散歩させているうちに、やはり愛犬を連れた近所のおばさんとすっかり親しくなった。その婦人が言うには「日本人はエライわね、だって自分の犬のウンチをその度に始末してるんですもの」。そういえば、ドイツの街では大抵ワンちゃんたちのオトシモノがそのまま路上に散らかっていて、それをうっかり踏んでしまいイヤーな顔をしているのをよく見かけた。“ドイツ人は清潔好き”というイメージがあるのだが、それは自宅とかマイカーなどだけかと思ったこともある。

私たちがドイツの生活にスムースに入っていけたこと、ドイツ人に親しみを抱き、打ち解けておしゃべりができるようになったのもタローのお蔭だった。そのタローはミュンヘンで天寿を全うした。15 歳だった。私たちは彼の遺影に幾度、声を掛けたことだろう。

”Vielen Dank! Unser Sohn.”

新春講演会：「二つの大戦と日独関係」

協会恒例の新春講演会が 2 月 21 日(土)午後 1 時 10 分から 2 時 45 分まで千葉市生涯学習センター（千葉市中央区弁天 3-7-7 ☎047-207-5811㈹ 下図参照）で開かれる。講師は（公財）日独協会理事、黒川剛（つよし）氏。演題は「二つの大戦と日独関係」。参加費用は無料。

＜生涯学習センターHP から＞

日独両国の修好条約 150 周年(2011 年)は日本がドイツから憲法、軍政など近代国家形成に必要な諸制度や知識を導入したのが始まりだった。両国は第一次大戦の中国・青島で戦火を交え多数のドイツ兵が習志野俘虜収容所などで過ごした。第二次大戦で同盟国になり、無謀な戦いの末ともに敗戦国になるなど波乱の歴史を刻んだ。日本外交の第一線で活躍され日独関係史に造詣が深い黒川氏の講演は、これからの両国関係を考えるうえで示唆に富んだものになるでしょう。なお、会場は定員(86 人)がありますので、参加希望の会員は☎080-4463-2609（当協会行事担当、9:00 – 18:00)、または当協会 HP 経由で申し込んでください。

（橋口昭八、二見理一）

◇会員の活動

■リーヒェ・カーステン氏

NHK テレビドイツ語会話再放送 2 月 24 日（火）22:25～50 に出演する。

活発だったドイツ語講習会

船橋市中央公民館で、昨年 11 月 10 日～12 月 15 日の各月曜日 18:00 から 2 時間(計 5 日間)開催した。講師は当協会理事で早稲田大学教授、岡村三郎氏。テキストは「ライオンのレーオポルト」＝ライナー・クンツェ著、岡村氏の注釈（白水社)。

受講生は、市川や船橋のドイツフェアで協会のチラシで知った非会員や若い方も多く、23(男性 15、女性 8)人が参加した。中には、女子高校生 1 人の参加もあり、目を引いた。

玩具のライオンと女の子が登場する話しなのだが、そのまま訳しても意味が分かりにくい場面がある。生徒の質問に対して講師が逆に問いかけると、考えを述べる。そのやり取りがとても活発だ。皆が登場人物の気持ちになって発言している。いろいろな意見に感心し、そしてなんだか嬉しくなった。

テキストを選んだ岡村先生の狙いは「楽しく読めて、それでいてちょっと考えさせる面もあるもの、比較的に簡単なドイツ語で読めるもの」。受講生の反応から、先生の狙いは十分に達成できたと思う。講習会終了後、岡村先生は「皆さんが熱心にドイツ語を学ばれるのに感動しました。この講習が皆さんのドイツ語学習の一助になればうれしく思います」と語っていた。

（澤井秀之）

X マス＆忘年会　盛大に

京成津田沼駅近くの「コール・ポニョポニョ」で、昨年 12 月 6 日、会員 31 人が参加してクリスマス会・忘年会が開かれた。須古正恒さんの司会・進行で、新会員 4 人（中野泰行、東島淑子、湯浅正人、吉川三朗の各氏）が挨拶。二宮一男さんの指揮によるクリスマスソングの全員合唱には福康子さんのピアノ伴奏があり、「ベートーベンの第九の歓喜の歌」では野村陽子さんの往年の美声に聞き惚れ、イタリア風料理、飲み放題の 2 時間半があっという間に終わった。　（杉田房之）

編集後記

◇会員によるホームスティは成功裏に終えた。家族の心の砕きようは並大抵ではなかった。それにしても女子学生たちの日本語は皆、素晴らしかった、と家族たちは口を揃える。「日本語で話すように」。千葉大の指示を素直に守る学生たちに、ドイツ語会話を楽しみにしていた会員もちょっぴり、がっかり!?　この度は、皆さんには、Die Eiche 編集に多大なご協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。

◇雅楽のドイツ公演を取り上げたのは、5 年前協会の旅行で面会した神余隆博・大使（当時）の言葉を思い出したからです。「ドイツの若者はマンガ、アニメなどのライトカルチャーに夢中だが、伝統文化をもっと知ってもらいたい」。在ドイツ日本大使館は、ドイツ人や若者たちへの伝統文化普及にも力を注いでいます。その一端を紹介しました。　(M.T.)